

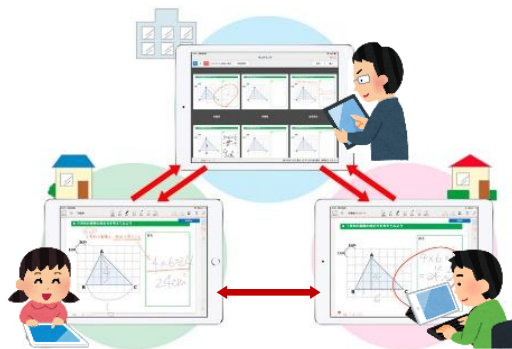
MetaMoJi
オンラインセミナー
「GIGA整備の最新動向」
動画配信中！

GIGA整備の最新動向がわかる

学習支援ソフト整備ガイド

～ 新しい学びに向けて、今考えておくこと～

- p.1-2 GIGA第1期で明らかになった学習支援ソフトの問題点
- p.3-4 教育の変化と学習支援ソフトの選定ポイント
- p.5-6 新しい学びに適した新しい学習支援ソフト



はじめに

2027年度の学習指導要領改訂に向けた審議が始まっており、GIGAスクール第2期は、新しい学びを見据えた整備が必要になります。

教育DXの推進によりデジタル学習基盤を前提とした教える方・学び方・働き方へ大きく進展します。個別最適・協働的

な学びやオンライン教育が一般化し、**今までの授業支援機能ではGIGA端末活用が困難になる**と予想されています。

本冊子では、GIGA第2期に広がる新しい学びに対応できるデジタル学習環境の要件を考察しています。途中で立ち止まることなく、5年以上先まで使い続けられる学習支援ソフトの選定に、お役に立てば幸いです。

学びに合わせて発展してきた学習支援ソフト

使い方が広がる1人1台端末

教育現場で進む1人1台端末の活用は、GIGAスクール第1期の実践を経て変化してきました。

最初は、授業でときどき端末を使う程度でしたが、徐々に学校生活全般で日常的に使うようになり、さらに端末を持ち帰り家庭学習で活用する学校が増えました。コロナ禍で戸惑いながら始めた遠隔オンライン授業も、今では多くの先生が使えるようになりました。

もうひとつ、最近増えつつある変化があります。通常であれば先生が主導してクラス全体で授業をしますが、一部の学校では、学習者個人が主体となり個別に学習に取り組んでいます。一人ひとりが学習内容を決め、学習に見通しを持って取り組み、友達や先生の意見を参考に深掘りし、自己評価をして改善する。先生は伴走者となり学習者を見守ります。このとき**オンライン巡視やオンライン個別指導に1人1台端末が効果的に使われています**。

新しい学びに適した学習環境へ

学習支援ソフトは、時代のニーズに合わせて用途や機能が移り変わり、学校教育になくてはならないツールに発展してきました。（下表）

2000年代はコンピューター教室に端末が設置され、情報教育が行われていました。この頃は管理者向けの端末管理システムが「授業支援システム」であり、一斉電源ON/OFFや環境復元の機能が必要とされていました。

2010年代はフューチャースクールが始まり、PCを普通教室に持ち出して教科教育に使うようになりました。この頃は先生向けの授業運営を支援するソフトを「授業支援ソフト」と呼び、教材の配布・提出機能や提出された画面を選んで拡大・比較する機能が搭載されました。

2020年代になりGIGAスクール構想が始まりました。学習環境が大きく変わり、「学習支援ソフト」と呼ばれるようになりました。様々な課題を整理して次に活かすことが求められています。

	第1世代 2000年代	第2世代 2010年代	第3世代 2020年代
教育	先生主導で「教える」 基礎・基本の習得、総括的評価 情報教育でICT習得	先生と学習者の 双方向授業 思考・判断・表現力の育成 教科教育でICT活用	学習者主体 で「学ぶ」 個別最適・協働的な学び、形成的評価 教育DXで ICT日常化
端末	コンピューター教室 固定式・共有PC、1校にPC1クラス分	フューチャースクール 可動式・共有PC、3クラスにPC1クラス分	GIGAスクール 可動式・専有PC、1人にPC1台
用途	管理者向け 端末管理	先生向け 授業支援	学習者向け 学習支援
機能	一斉電源ON/OFF、環境復元	配付・提出、画面一覧・拡大比較	オンライン巡視、1ノート全学習対応

GIGAスクール構想 第1期の振り返り

PISA（OECD学習到達度調査）の衝撃

平成時代の後半、グローバル化と情報化が急速に進み、子供たちが社会に出て競争する相手は日本人ではないことに気づき始めました。

日本が教育にICTを活用する機会は、学校・家庭ともにOECD各国のなかで最下位を記録していました。さらに3年ごとのPISA*では、海外諸国に引き離されていく結果となり、教育界では衝撃が走りました。その影響もあり、1人1台端末の整備が大きく前進することになります。

前倒し整備と端末優先導入

当初のGIGAスクール構想は、2020年度から5年計画で進める予定でしたが、新型コロナウイルスの影響により一斉休校となり、急遽2020年度中に前倒し整備することになりました。製品を選定する時間も予算を確保する準備も不十分な状況で、まずはタブレット端末を導入することが最優先で進んでいきました。学習環境を整備するにはソフトウェアが必要ですが、そこまで十分検討できた自治体はほとんどいませんでした。

その結果、次のような整備が多く行われました。

- ①学習ソフトが付いていない基本パックを導入
- ②学習ソフトの整備を翌年以降に見送り
- ③無償の学習ソフトを採用

*「OECD生徒の学習到達度調査（PISA）」国立教育政策研究所

4年間の実践で見えてきた課題

1人1台専有端末が配備され、全ての先生と子供たちが端末を使うことになり、遠隔オンライン授業が行われるなど、GIGAスクールの始まりは初めてづくしで、先生はとて大変な時期でした。

1つ目の課題は、大変ながらも前向きに取り組んだ地域と、そうではなかった地域の間で活用格差が生じている点です。4分の1の自治体は、今も活用が停滞しているという調査結果もあります。

2つ目の課題は、活用格差が学力格差につながる点です。全国学力・学習状況調査の結果では、「主体的・対話的で深い学びの視点で授業改善を行っている学校ほど、ICT機器を活用し、かつ平均正答率が高い傾向がある」*ことが示され

ています。これは毎年同じ傾向です。

3つ目の課題は、初めてづくしの環境だったため、製品選定のポイントが明確になっていなかった点です。例えば、コロナ禍の遠隔オンライン学習を体験して、学習活動の進捗が見えることや、活動中に画面越しに個別指導をできることが重視されるようになりました。このように、体験してから気づいた選定ポイントは他にもありました。

採用した学習支援ソフトの機能の違いにより、指導・学習に大きな差が生じています。学びの充実や学習保障にも関わる問題なので、この後、詳しくご説明します。

このように、GIGA第1期で様々な課題が見えてきました。これらの課題を今後に持ち越さないように、整備をしっかりと見直すことがGIGA第2期を成功させる秘訣です。

GIGA第1期で明らかになった学習支援ソフトの問題点

製品により「できること」が大きく異なる

個別最適学習、伴走支援、オンライン教育、不登校支援、働き方改革、情報セキュリティ対策など、学習環境を整備するだけでも様々な検討が必要となっています。その学習環境を大きく左右するのが学習支援ソフトです。

指導・学習に有効な機能がある／ないの違いだけでなく、同じ機能でも性能や実現方式の違いによって、できることが大きく異なってきます。

逆効果の整備が見過ごされている

「せっかく整備したGIGA端末なのに、活用が進まない。」または、進めているけど苦労している地域が多いと聞きます。原因は、学校現場のニーズに合わない学習支援ソフトが導入されているためです。

トが導入されているためです。

一例をあげると、学習状況をリアルタイムにモニタリングできない製品は、個別指導ができません。先生は子供たちの手元が見えないので、授業運営が上手くいかなかったり、ノートを提出させて放課後にコメントを書き込んで返したりなど、使いづらい状態です。学習機会の低減や、働き方改革に逆効果となっています。

しかし、他の製品を使ったことがないと、このような事態に陥っていることに気づけません。**使いづらいだけでなく、活用格差やICT活用指導力の格差、ひいては学力格差が広がってしまいます。**早期改善が急務です。

まずは、上手く活用できている地域・学校がどのような使い方をしているのか見てみましょう。

1人に1台を利用して指導・学習の基礎を強化

用途が広がるオンライン巡視

先生や教育委員会の方は、机間巡視・机間指導の重要性を十分ご存知と思います。つまづいている子を導いたり、状況に応じてヒントを出したり、正解に辿り着けそうな子を見守ったりと、巡視・指導は授業にとっても重要です。

巡視をオンラインで行うと、授業以外に家庭学習や自主学習の見守り、探究学習の伴走支援や長期休暇中の課題の進捗確認などにも役立ちます。

オンライン巡視が学びに与える効果

オンライン巡視ができると、つまづいている子がわかり、その場で個別指導ができます。クラス全体の学習状況が見えるので効果的に授業運営できます。さらに、提出物を提出しなくて良い、管理しなくて良いという点もデジタル化の大きなメリットです。休んでいる子や未提出の子に、個別に提出をうながす手間もかかりません。

一方、オンライン巡視ができないと、先生は課題が提出されるまで待つしかありません。しかし、つまづいている子は

提出するのが難しい状況です。なかなか提出されないと先生は不安になります。途中で打ち切って提出させて、放課後にコメントして返したとしても、学習効果は半減してしまいます。

オンライン巡視は、効果的に指導・学習ができるGIGAスクールならではの使い方です。

「オンライン巡視」が**できる**と

- ・授業への参加可否がわかる
- ・つまづき等の学習状況が見える
- ・その場で個別指導ができる
- ・授業運営がしやすい
- ・学習成果は提出不要



「オンライン巡視」が**できない**と

- ・提出されるまで学習状況が見えない
- ・提出を待つ間が不安、授業運営困難
- ・つまづいている子は提出できない
- ・提出後のコメントは学習効果が低い



GIGA第2期に起こる教育の変化

個別最適な学びと協働的な学び

GIGA第1期で端末活用が日常化し、個別最適学習の実践がはじまっています。学習保障や学びの充実の観点からオンライン教育も広がってきました。今後これらの取り組みが一般的に行われるようになっていくと予想されます。

個別最適な学びと協働的な学びは、2021年1月に公表された中央教育審議会の答申「令和の日本型学校教育」*1のなかで、全ての子供たちの可能性を引き出す目的で考え方がまとめられています。子供たち一人ひとりの特性や進度に合わせた「指導の個別化」、興味・関心に応じて学習機会を提供する「学習の個性化」は、どちらも1人1台端末が前提となっています。一人ひとりに端末が配備されたことで実践できる環境が整ったと言えます。

遠隔・オンライン教育による学びの保障

新型コロナウイルスの影響で一斉臨時休校や活動制限が起きた一方、1人1台端末の前倒し整備により教育環境に大き

な変化がありました。

義務教育の在り方ワーキンググループ*2では、災害時・緊急時以外にも、学校間交流や不登校支援や、離島や山間部などの小規模校の遠隔授業など、オンラインの活用は一層重要かつ積極的に利用していく方針がまとめられました。

離島や山間部に一斉配信型の遠隔授業を行っている県立高校や、不登校支援のため全ての授業でカメラと学習支援ソフトを使って遠隔授業をしているしている小中学校など、学びの保障の取り組みが普及しつつあります。

デジタル学習基盤前提の指導法・学習法

1人1台端末の活用、デジタル教科書・教材の普及、ネットワーク改善と遠隔・オンライン教育の浸透など、今まで以上にICT活用が一般化します。それに加えて生成AIや教育データの利活用も進みます。

これらの**デジタル学習基盤を前提とした、新しい指導法・学習法が確立され、根付いていく**ことになるでしょう。

教育DXの推進、教育データの利活用

教育DXとは、ICT化とDX化の違い

DX（デジタルトランスフォーメーション）に関するいろいろな説明を見かけますが、明快に理解することは容易ではありません。理解の手助けとなる資料として、ICTと比較した表を下に用意しました。GIGAや、それに対応する様々な項目も加えています。

下の表から読み取れることは、GIGA第2期を第1期の延長と考えていると失敗しそうだ、ということです。むしろ別次元くらいに捉えておかなければ上手く移行できないかもしれません。

教育DX第1段階：電子化	教育DX第2段階：最適化
GIGA第1期	GIGA第2期
ICT化（量的変化） 学習を効率化	DX化（質的变化） 学習を個別最適化
1人1台端末の整備と活用 -	1人1台端末の日常的活用 学習データの利活用
先生主導「教える」授業支援 対面授業 総括的評価	子供主体「学ぶ」学習支援 オンライン教育 形成的評価

DXとは価値創造（例）エアコンをDXすると

第1段階-電子化：リモコンをスマホアプリにする

第2段階-最適化：アプリのAIで効率的に稼働

第3段階-新たな価値：GPSでお出かけ停止、稼働率から故障予測
人感センサーで遠隔見守り、地域データから設定提案



教育DXの理想と現実

第4期教育振興基本計画*3の5つの基本方針のひとつが教育DXの推進です。**2023年度から5年間で、第2段階へ着実に移行することが目標**とされています。

第1段階は、学習を記録・分析するために情報を電子化するフェーズです。教育データ標準として学校や学習指導要領など様々な情報がコード化されています。

第2段階は、1人1台端末で記録した学習データを利活用するフェーズです。一人ひとりの指導・学習を改善・最適化し、誰一人取り残されない教育を目指しています。

ところが第2段階の推進は、なかなか現実味を帯びてきません。教育データの利活用に関する有識者会議では、できることから進める方針ですが、子供たちや先生に有効な形になるのは少し時間がかかりそうです。この猶予期間で、しっかり調査・検討しておくことをお勧めします。

1人1台端末の利活用に係る計画の策定

文部科学省が公開を義務化している整備事業計画*4の中で、活用の鍵となる「1人1台端末の利活用に係る計画」の策定要領に次のことが書かれています。

1.学校現場にヒアリングを行うこと、2.先進的取り組みを

参考とすること、3.他の自治体の取組や課題を参考とすること、4.指導課や指導主事の参画を得ること。

丁度、これらの項目に適した情報がございますので、ご参考までにご紹介いたします。

*1 「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」（令和3年4月22日更新）中央教育審議会

*2 「義務教育の在り方ワーキンググループ 審議まとめ」（令和6年12月24日）中央教育審議会初等中等教育分科会

*3 「第4期教育振興基本計画」（令和5年6月16日閣議決定）文部科学省

*4 「公立学校情報機器整備事業に係る各種計画の策定要領」（令和6年4月26日）文部科学省

1人1台端末の利活用に係る学習支援ソフトの選定ポイント

先進自治体・先進校による製品選定の要件

GIGA端末の整備・活用にご尽力されてきた教育委員会や先生方にご協力いただき、「Next GIGAで端末をフル活用するために必要なこと」について検討会や聴講会を行いました。沢山のご意見ご提言をいただいた中から、学習支援ソフトの要件に関するものをまとめました。製品選定のお役立つと思いますのでご紹介します。

1. オンライン巡視ができる

学習支援ソフトではモニタリングと言われることもあります。前述のとおり、オンライン巡視は1人1台端末ならではの活用法で、今までの指導・学習を便利にするだけではなく、個別最適学習や探究学習、不登校支援などに必要不可欠です。

選定するときの注意点として、極力**リアルタイムに動作**する製品を選んでください。書き込みと表示で遅延が起きると、表示が急に変わり書き込んだ順序が伝わらなかったり、話しと表示がズレて何を指し示しているのかわからなくなったりして、子供がおいてけぼりになってしまいます。

2. 多様な協働学習に対応する

協働学習に関する機能も、製品によってできることが大きく異なるため、注意が必要です。

協働学習には、クラス全体で意見共有したり、グループで意見を練り上げたり、共同制作やワークショップをしたり、ジグソー学習をしたりするなど、様々な手法があります。学習支援ソフトにも、それぞれの手法に適した機能があります。

個人の意見を一覧表示する機能を協働学習と呼ぶ製品もあれば、友達にカードを送る機能を協働学習と呼ぶ製品、ホワイトボードのように全員一斉に編集できる機能を協働学習と呼ぶ製品もあり、多種多様です。1つのノートで各ページに個人を割り振り、相互に参照・書き込みする活用方法で協働学習を実施する製品もあります。

選定時に大事なことは、**複数の手法に対応**できる製品を選ぶことです。複数ページのノートを作れる、全員で同じ模造紙を編集できる、他人のページには付箋でコメントできる、スムーズに学習できるように他人の書き込みに対して参照・編集・削除を先生が切り替えられるなど、様々な工夫が盛り込まれている製品もあります。

3. 1つのノートで学習できる

授業は、一斉・個別・協働といった学習シーンを切り替えながら進みます。しかし、多くの学習支援ソフトは、学習シーンが変わるとノートやアプリを取り替えなければいけません。このとき操作に時間をとられ、授業の流れも途切れてしまい学習にはマイナスです。授業準備も面倒です。効果的な授業設計・授業運営ができないと問題視されていました。

選定時は、1つのノートでページ毎に一斉・個別・協働学

習モードを設定できる製品や、授業中に学習モードを切り替えられる製品がおすすめです。先生が電子黒板で説明→子供がノートに個人の考えをまとめる→ホワイトボードでグループの意見を集約→プレゼンにまとめて発表するといった**一連の学習活動を1つのノートで実践**できます。

4. UDデジタル教科書体で表示できる

子供たちが文字を正しく覚えるために、教科書体で表示することが必要です。UD（ユニバーサルデザイン）は、視覚障がい者やディスレクシアの方に読みやすく工夫された書体です。さらに、デジタル教科書体は、PC画面でも「はね・はらい」などの細かい線が潰れずに表示できる書体です。

UDデジタル教科書体を使うと可読性が向上*し、子供たちの学習意欲や学力向上が確認されています。デジタル教科書が普及する昨今、教材作成やノートでも**UDデジタル教科書体で表示**できることは、非常に大きな価値があります。

5. 用紙設定できる

授業で使われるワークシートや子供たちのノートは、縦長罫線入りで、そのまま印刷できる紙のイメージのものが一般的です。しかし、学習支援ソフトで書き込む用紙は、付箋のような小さなカードやプレゼンソフトのような横長の白紙が多いようです。ニーズに合いません。

デジタルか紙イメージかの二律背反ではなく、両方できることが大事です。**紙のイメージで教材やノートを作成**するには、用紙設定が必要です。また**PDFを取り込める**機能は、教材作成などにもとても重要です。

6. 学習eポータルから呼び出せる

学習に集中できるよう、操作や時間のかかる処理はできるだけ避けたいものです。SSO（シングルサインオン）や学習eポータル連携は、製品選定で必須と考えられています。

文教製品には他にも、OneRosterやLTIなどの技術標準が幾つかあり、今後採用が進むと考えられます。**技術標準に対応**した、または対応予定の製品を選ぶことが大事です。

7. セキュリティ対策されている

どんなに優れた製品でも、セキュリティ対策が疎かでは導入リスクがあります。最近ではゼロトラストのセキュリティ対策が推奨されていますが、情報漏洩を起こさないのは勿論、起きたときの対策も講じておかなければなりません。

ISMSは、技術的解決力の他、組織マネジメントやリスク度による解決プランの準備など、企業が脅威に対して適切に対応できるかを総合的に評価・認定する国際的な基準です。

学習支援ソフトのメーカー企業自身が、**ISMSを取得**していることが選定の重要な指標になります。

*「UDデジタル教科書体の調査結果（ロービジョン／ディスレクシア）」 慶応義塾大学心理学教室 中野泰志教授／大阪医科大学LDセンター 奥村智人氏

GIGA第2期に最適な学習支援ソフトとは

学習支援ソフトの現状

先進自治体や先進校の意見をもとに学習支援ソフトの選定ポイントをまとめましたが、実際の製品はどのような状況なのか見てみましょう。

下の表は、現役で使用されている授業支援ソフト（学習支援ソフト）を5つ選び、比較*したものです。比較項目は先進自治体・先進校からあがったNext GIGAの学習支援ソフトの要件を使用しています。

複数の製品を比較・調査しないと機能の有無や差異に気づくことはありませんが、実際には非常に大きな違いがあることがご理解いただけると思います。では、なぜこのような状態になっているのでしょうか。

GIGA以前の設計と学校ニーズへの対応

現役の授業支援ソフトは全て、GIGAスクール構想以前に

設計・開発されており、1人1台端末を想定した作りにはなっていないことが大きな要因と考えられます。

MetaMojiiは、民間企業の過酷な環境で実績のあるアプリケーションを基盤に開発し、さらに継続的に機能強化したことで、Next GIGAの要件に耐えられる製品となっています。

5年以上先まで使い続けられるツール

現在お使いの授業支援ソフトでGIGA第2期を乗り越えられるか、よく考えてみなければなりません。個別最適学習、不登校支援、探究学習、オンライン教育、複線型授業などが普及した時、立ち止まることなく5年以上先まで使い続けられるものを選んでください。学習保障にもかわります。

子供たちの未来のために、**使い慣れた授業支援ソフトをそのまま継続採用するのではなく、GIGA第2期に最適な学習支援ソフトを検討すること**をご提案します。

Next GIGA の要件	MetaMojii ClassRoom	A社 授業支援ソフト	B社 授業支援ソフト	C社 授業支援ソフト	D社 授業支援ソフト
モニタリング (巡視、個別指導)	◎リアルタイム	×不可	×参照のみ	△Windowsのみ	◎リアルタイム
同時共同編集 (協働学習)	◎グループ/クラス	○クラス	△クラス:他者削除可	△Windowsのみ	△1人のノート限定
学習モード切替 (授業運営)	◎一斉/個別/協働	△別ノート	△別ノート	×別アプリ	△相互参照/編集設定
教科書体表示 (視認性、判読性)	◎UDデジタル教科書体	×フォント固定	×フォントなし	×フォントなし	×フォントなし
用紙設定 (教材、レポート)	◎縦横置き、罫線等	△別途用意し読込	×用紙概念なし	×横置きのみ	△別途用意し読込
学習eポータル連携 (起動、SSO)	◎連携	×未連携	◎連携	◎連携	△MSのSSO未対応
情報セキュリティ (ISMS認証)	◎取得済み	×未取得	◎取得済み	◎取得済み	◎取得済み

新しい学びに向けて、今考えておくこと

次期学習指導要領を考慮した整備

学習指導要領の改訂を節目に、学習者主体の新しい学びが広がります。GIGA端末をフル活用するための要件と合わせて、新しい学びに対応できる学習支援ソフトの要件も考慮しておく必要があります。「使い慣れたソフト、大勢が使っているソフト、安価なソフト」に主眼をおいて採用されると、GIGA第2期の途中で行き詰まり、活用が停滞しかねません。

新しい学びに対応するための必須要件

新しい学びに対応するために、様々な実践から見えてきた3つの要件をあげておきます。

1つ目は、**手書きに優れている**ことです。思考を妨げない高品質な手書きが、創造的な学習活動に必須です。

2つ目は、**画面共有に優れている**ことです。先生のオンライン巡視・オンライン個別指導は勿論、学習者間の他者参照や相互評価には、リアルタイムでの画面共有が必須です。

ここで注意が必要なのは、リアルタイムをうたっている商品でも、遅延がストレスになり指導・学習に大きく影響する場合があります。機能の有無だけでなく、性能面もしっかり確かめることが重要です。

3つ目は、**授業運営に優れている**ことです。授業中に複数のノートやアプリを切り替えると、時間も手間もかかり学習を阻害してしまいます。1つのノートで学習者一人ひとりが主体的に学習活動を選択できる環境も必須と言えます。

以上3点は製品の設計に関わる基本性能で、バージョンアップで対応するのは難しい内容です。製品をよく検討し、新しい学びに対応できる学習環境を整備してください。

これらの詳しい内容は、MetaMojiiオンラインセミナーで動画配信中です。製品Webサイトから「GIGA整備の最新動向～次期学習指導要領に向けて今考えておくべきこと～」にお申し込みください。

* 2025年1月時点で、各社の製品カタログやWebページやユーザーヒアリングの結果をまとめています。最新版で強化・改善されている可能性があります。機能実装せずには使い方を工夫して可能としているケースは「機能なし」として扱っています。

MetaMoji Classroom (メタモジ) の特長

ご高評いただいている点

MetaMoji Classroomをお使いの先生方が、高く評価されているポイントが大きく3つあります。

1. 紙のように自在に書ける
2. 遅延なく画面共有できる
3. 1ノートで授業ができる



1つ目は、紙のように自由自在に書いて、思考を妨げない。デジタル作品の制作や、意見の練り上げ、創造的な学習活動に役立つ点です。

2つ目は、遅延を感じない速さでリアルタイムに画面共有できるので、ノートに書きながら説明してもズレずに伝わる点です。電子黒板やホワイトボードアプリとしてもご利用いただいています。また、オンライン巡視や画面越しに個別指導ができる点が、とても重宝されています。

3つ目は、1つのノートで一斉・個別・協働といった学習シーンを全てカバーしている点です。授業中にノートやアプリを変える必要がないため、効率的かつ多様な授業に対応できます。ページ毎に学習モードを設定しておくことも、授業中にモードを切り替えることもできるので、授業準備も授業運営も安心です。

これらはGIGAスクール、ひいては教育に不可欠な要件であり、MetaMojiの得意分野です。

軽快に動作するMetaMojiの技術

MetaMoji Classroom は「リアルタイム学習支援サービス」と呼ばれるように、モニタリングや画面共有の遅延が気にならないほど高速に動作します。その理由は、建設業界やテレビ局*などのミッション・クリティカルな環境で使用実績があり、民間企業が認めたアプリケーション基盤で開発・運用しているからです。

新しい学びに対応した MetaMoji Classroom 3

GIGA第2期に合わせ、学習者主体の新しい学びに対応した学習支援ソフトを提供しています。

● 商品名



● コンセプト

新しい学びに適した新しい学習支援ソフト

● 発売

2024年10月15日

● 価格

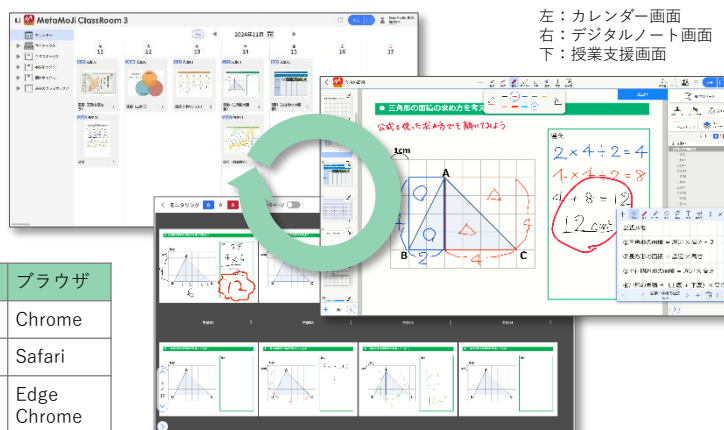
自治体 オープン価格

● 動作環境

Webアプリケーション

● 機能特長

端末	OS	ブラウザ
Chromebook	最新OS	Chrome
iPad	iPadOS 17以上	Safari
Windows	Windows11/10	Edge Chrome



左：カレンダー画面
右：デジタルノート画面
下：授業支援画面

現行商品で高評価いただいているリアルタイム性と書き味の良さ、基本機能はそのまま引き継ぎ、新機能の追加とWebアプリケーションとして操作性を最適化しています。

学習活動のためのデジタルノート

- 新規** メモ帳 : ワンタップでノートを開きすぐ書ける、2画面活用で学習が捗る
- 強化** 筆箱 : お気に入りのペンを複数保存、ペン選択で思考を途切れさせない
- 新規** 暗記シート : 重要箇所にもーカーを引いて確認、シートで隠して繰り返し習得

学習と振り返りに便利なカレンダー

- 新規** 教材一覧 : 教材の使用日時でカレンダー表示、すぐに学習に取り掛かれる
- 新規** リフレクション : ファイルを探す手間いらず、前事や今日の学びの振り返りが習慣化

巡視も個別指導もできる授業支援

- 継承** オンライン巡視 : 学習状況を見ながら個別指導や授業運営、学習者主体の教育を実現
- 継承** 学習モード : 1ノートで一斉・個別・協働を連続実施、あらゆる授業設計に対応
- 新規** 校外ノート共有 : 自治体内でノート共有、自治体外の学校とも遠隔合同授業

GIGAスクールに最適な管理・運用

- 新規** 統合名簿管理 : 自治体と学校が連携した管理・運用が可能、OneRosterに対応
- 強化** 招待 : 学級編成未登録でも招待コードで授業実施、新年度すぐ運用可能
- 新規** 複数校所属 : 複数校に所属でき、ログイン後に学校を切り替えて指導できる

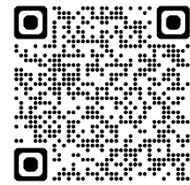
* 建築現場での活用事例 (大林組)、建築現場での活用事例 (大和ハウス工業)、テレビ局での導入事例 (TBS)、他多数

教育の情報化に関するWebサイト

- 教育の情報化の推進
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/index.htm
- GIGAスクール構想の実現
https://www.mext.go.jp/a_menu/other/index_00001.htm
- StuDX Style
<https://www.mext.go.jp/studxstyle/>
- 教育情報セキュリティポリシーに関するガイドライン
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/1397369.htm
- YouTube 文部科学省チャンネル
<https://www.youtube.com/@mextchannel>
- 教育DXサービスマップ、GIGAスクール自治体ピッチ
<https://ppp-education-dx.jp/>
- 未来の教室
<https://www.learning-innovation.go.jp/>
- ICT CONNECT 21
<https://ictconnect21.jp/>
- JAPET&CEC 日本教育情報化振興会
<https://www.japet.or.jp/>

【 MetaMoJi ClassRoom 倶楽部 】メルマガ会員募集中!!

GIGA端末のフル活用に役立つ情報をメールマガジンでお届けします。
製品情報、実践事例、セミナー案内、調査レポート、教材ダウンロード等
MetaMoJi ClassRoomにご興味のある方は、どなたでも無料購読できます。
是非ご登録ください。 [MetaMoJi ClassRoom 倶楽部 登録申込](#)



●記載された会社名、製品名等は、各社の登録商標もしくは商標、または弊社の商標です。●本冊子の一部または全部を複写、複製、改変することは、その形態を問わず禁じます。●記載された内容は、改良のため予告なく変更することがあります。

製品情報はこちら▶

<https://product.metamoji.com/classroom/>

GIGA整備の最新動向がわかる

学習支援ソフト整備ガイド

株式会社MetaMoJi

〒106-0032 東京都港区六本木1-7-27 全特六本木ビルEAST 4階

MetaMoJi ClassRoom 3

製品情報・セミナー・お問い合わせ

